

議長記者会見（第38回）会見録

日時：令和2年12月18日（金）

午後2時から

場所：石川県議会議事堂

議長応接室



会見を行う稲村議長（右）と善田副議長（左）

ご苦労様です。なかなかコロナ収まらないですね。

私と善田副議長で4回目の定例会を無事終えることができました。

いろいろとお話したいのですがコロナが収束しないと、残念ですが。

こうした中、急に沸いてきたのが11月12日でしたかね。国交省と鉄道運輸機構から「北陸新幹線が1年半遅れる。2,880億円の事業費が足りない。」と急に言われました。びっくりいたしました。その後、北陸三県の知事と議長で東京に陳情に行ってきました。先般、報道もされましたが、1年半が1年に縮まったと、2,880億円が2,658億円、およそ222億円くらい少なくなったと。これを聞いて本当は少しは安心したのですが、これだけの短期間のうちに検証委員会だね。こんな杜撰など、運輸機構がね。正直言ってびっくりしたのですね。

そんなことは検証した上で我々に言ってくれても良かったんじゃないかと。そんな思いもしましたが、ただ、岡田官房副長官、石川・福井の国会議員の先生方が精力的にやっていたおかげで政府が動いてくれたのかと。今回のことで大阪までの道筋も、財政的にも少し道筋がついたように受けました。石川県は40億円弱の負担ということでございます。本当はこれをゼロにということでしたのですが、ある程度はやむを得ないことなのかと思いましたが。それであるならば、これからは、一時国と地方の信頼関係を失いかけたところで二度とこのようなことがないように、敦賀までは令和5年度末までにしっかりと開業していただきたい。1年遅れることによって、石川県でも、福井県でも敦賀開業の対応に備えた様々な行事・イベント、また資本投下されてきた民間の方々もいっぱいいらっしゃいますから、その人たちに大変申し訳ないと思いつつも1年をしっかりとやっていただけることを強く望んでおります。国交省は、運輸機構に対して徹底的な管理をやると言っていますので遅れることはないだろうと思いますが、これからも我々議会としても逐次情報を地方にいただくように努力しながら、完成に向けて頑張っていこうとこんな思いでおりますので、新幹線については100%ではないのですが、一応は安堵したということでございます。

令和2年を振り返りますと、私ども正副議長になって以来、議会はコロナに対応して、もう約10カ月になります。ここに来て少し第3波と言われるような状況で、石川県でも毎日のように、全国と比べると少人数でございますが、感染者が出ている。またカラオケ等によるクラスターも発生しております。東京、大阪、愛知等と比べるとまだ下火ですが、全国を見るとまだ収まらない。こういう状況を見ると、いつ何時やってくるか分かりませんので、年末年始もコロナとの闘い、新しい生活様式をこのまま継続していかなければならない。ワクチンができて、外国ではその接種がされるようになってきました。日本ではまだ少し早いのかと思いますが、ワクチンができたということは、大変喜ばしいことかと。いずれ収束する日が来ると思いますが、ただ石川県は重症患者がゼロですからこの点はやや安堵しておりますが、最近の例を見ておりますと感染経路の不明者が非常に多くなってきている。この点が非常にね。半数が不明者ということですから、その点を心配しながら対応していかなければならないかとこんな思いでございます。コロナもこの議会で29億円余の補正も付けましたし、県がやれることは県単でも付けて対策は少なからずやっておりますので、ただ国の方が、何か行ったり来たりというかね。GoToトラベルを見ても本当は11月に止めてくれればこんなふうにならなかったかと。観光業者の皆さん、飲食店の皆さんにすると一番の書き入れどきの年末年始にGoToをみんな止めるということで、これは大変弱っていらっしゃるんじゃないかと。県はできるだけそういう人たちに心配りをするような施策をこれから打っていかなければならないかと。知事も年末年始コロナとともに、県の職員の皆さんもそうだと思いますが、大変な時期を乗り越えなければならぬかと。その上で医療従事者の皆さん方が、本当に疲弊してしまわないようにしなければならぬかと。まだ石川県は逼迫した状況ではありませんが、何とかして医療従事者の皆さんにね。我々も感謝する気持ちそれのみですが、医療に従事する人たちに対する慰労金ですとかいろんなことをもっと

考えなければいけないのかと思いますし、そんなことを思いますと、医療従事者と言われたい準従事者、例えば薬剤師の皆さん、そういう人たちへも気配り、心配りをするべきじゃないのかと。やはりコロナ感染の状況、お医者さんからの調剤を全部やっているわけですから、聞くところによると渡すときも車の所まで届けているとそんなこともやっている。薬剤師の皆さん方、従業員の皆さんも大変な苦勞をされていると。そういった関係者の裾野は大変広いのではないかと思いますので、議会としても幅広く、いろんな意味で補助対象にしていくべきかとそんな思いもいたしております。

また、大先輩である金原先生が亡くなられたこと。その後叙勲も受けられましたが、私どもにすれば、私個人にしても県議会議員になったときから大変なお世話になって、「この先生を追い越そう」と言ってやってきたこともありますので、大変残念なこんな思いをいたしました。

その他には、クルーズターミナルができましたが、肝心のクルーズ船の寄航がゼロとなり、大変残念ですが、6月の開館からの来館者が50万人を突破し、賑わいの創出、県民の憩いの場所になったとして大変いい観光スポットになったのではないのだろうか。併せて工芸館もオープンするなどいろんなこともありましたが、なぜかコロナが頭から離れない1年であったかとそんな思いでございます。

私からは以上でございます。

<質疑応答>

記者

議会、お疲れさまでした。

今、冒頭に触れられましたけれど、準コロナ関係の医療従事者、準医療従事者みたいな方々に対する支援をというお気持ちをおっしゃったと思うのですが、議長個人のお考えで構わないのですが、薬剤師以外にこういうところへのてこ入れが必要なんじゃないかとお考えになる職種などはございますでしょうか。

稲村議長

薬剤師の皆さんは直接医療と結びついた仕事ですから、あの方々にはやはり国の方がもっと目を向けるべきであろうと思いますし、私ども国会議員の先生の目を向けてもらえるように陳情しようかこう思っています。

今聞かれたように、その他の職種ですぐに思い当たるものはないですが、そういう職種が出てきたらやはり手厚くすべきじゃないかと思います。

記者

県議会の質問でも出ていましたけれど、薬剤師とか、保育士とか。橋本議員の一般質問だったと思うのですが、他のいくつかの県では県独自の事業としてやっていらっしゃると、我が県でもいかがですかという質問に対して、谷本知事は、際限なく広がっていくじゃないかと否定的な考え方を示されたという状況なんですけど、県独自の事業として議会側から求めていくというか、必要ではないかというお考えをこれからも伝えていくべきだというふうにお考えでしょうか。

稲村議長

それは当然両面からやろうと、県にとって一番いいのは、国がやったから県がやれるというのが一番道筋とすれば早いと思いますが。県独自としてもね。あれやりましたよね。石川県も県内宿泊割り。だからあのようなことも考えればできると。ただ薬剤師の皆さん方にはあれ1店舗70万円だったかな。あの補助金は出てるんですよ。これはハードの面です。でもソフトの面はないのでそういう面に我々は少しすべきかと。これは当然、医療が逼迫すれば看護師さんでもお医者さんでも、やはり俗に言う町のお医者さんだから、コロナで逼迫すれば行っても診察してくれない。そうしたらちょっとした風邪なら薬屋に行くと。ただそういう人は誰と接触しているかわからない。こういう危険性だってありますから、そんな面からも薬剤師の皆さん方は不安な気持ちでやっていらっしゃる。県単でも予備費30億円ありますが、予備費を使っていくという段階にはなかなかいかないでしょうけれども、少し目を向けるのはね。ただ何人くらい該当者がいるのか、その辺から洗い出さないとね。できるか、できないのか、国には要請をし、県も考えるという両面だと思いますよ。

記者

今回、準コロナ関係者というお話でしたけど、議長のイメージ的には、具体的な現金の給付みたいなものをイメージされているのですか。

稲村議長

他県を見ますと5県ほどですかね。3万とか5万とかという金額が出ていましたからそういうふうにするのが妥当なのかという気持ちは持っています。

記者

まだ今は思いの段階だというお話ですが、議論をする場としてはやはり来年の当初議会とかいうお気持ちですか。

稲村議長

もちろん。

記者

ありがとうございます。

あと、新幹線関係なんですが、議長も各県の知事に連なって国会議員の先生たちにご要望に行かれていました。お隣の富山県は新田知事、福井県は杉本知事、お二人とも誕生して非常に若い知事の方で、谷本知事は非常に存在感があったかと私もそばから見ていて思ったのですが、議長から見て新幹線の再三の要望における谷本知事の姿は、どのように映りましたでしょうか。

稲村議長

今おっしゃったとおりで、富山の知事さんはなったばかりで会長も「どうしよかなあ」って、それでも結局は富山が会長をやることになりましたけど。やはり谷本知事は全部引っ張っていったるね。そんな感じ。最初から分かっていますし、全て頭の中に入っています。ですから石川県の谷本知事がいたということは、要請に対する大きな力になったと思いますよ。

記者

富山の同盟会の会長は、来年の8月まででしたっけ。

稲村議長

任期は一応そうになっているが、ずっとやるみたいだよ。そうじゃないの。

北陸新幹線としての同盟会ですから、大阪までが北陸新幹線ですから、それは僕らが決めるんじゃなくて、知事さん方が決めるでしょうから。

記者

実際、要望で一緒になられた際に知事同士とか議長さんたちから「新田さん、お願いしますよ」みたいなそういう話はあったのですか。

稲村議長

それは知事同士でしょう。それには私は入っていない。

記者

そうですか。ありがとうございます。

稲村議長

副議長からも一言。

善田副議長

先ほどの薬剤師の話では、聞いてみたところ、やっぱり病院と接しているので、職場自体が何と言いますか、対ウイルスに力を入れているので暗いという雰囲気があったりとか、中には家に帰る前にほかでシャワーをして帰るとかいう職員さんがいらしたりしてね。薬剤師は人件費が主で、売上げは1割か2割くらい下がっているらしいです。そもそも売上げが半分以下になっていないので国の持続化給付金なども受けていないと言っていました。知事は答弁で持続化給付金の話をしていましたけど、それは全く受けていないということですので、議長が言われるように何か手当てが必要ではないかと思っています。

新幹線に関しては、私、能美市、南加賀なんですけど、2年後という楽しみが遅れてしまったので、モチベーションがちょっと下がり気味でありますので、さらに遅れないように議会として絶えずチェックしながら今後やっていきたいと思っています。再度遅れてしまうと本当に信頼を失ってしまうので、そういったことも気にしていきたいと思います。以上です。

記者

もう一度確認なんですけど、薬剤師さんに対しての何かしらの手だてをお考えになっていらっしゃるのか、薬剤師さん以外の職種の方に対しても考えられているのでしょうか。

稲村議長

関連があればね。ただ薬剤師さんの場合は、緊急的に要請をやってらっしゃいますからね。「ぜひとも頼む」という要望を出されていますのでね。それに応えてあげる。それから保育士の皆さん方もそういうことをやっています、そういうふうに行くに際限なくとなってきますけど、やはり医療従事者に準ずる人をフォローするべきかという気はしています。

記者

例えば介護士さんとか、介護福祉士さんとか。

善田副議長

介護には出ているんじゃないかな。

記者

出ていますね。ごめんなさい。

記者

出ていないのは、保育士とか、あと放課後児童クラブの職員とかがよく言われていますよね。そういったところの議論が必要になってくるんじゃないですかね。

稲村議長

そうですね。

記者

ありがとうございました。

以 上